

学生からのメッセージ

父の言葉

三原 朋之（福岡歯科大学5年）

僕が3年の夏、歯科医の父が病に伏し、家族を支える収入の道が閉ざされました。そのことを知ったとき「学費は大丈夫か」「下手をすると退学」という二つの不安が脳裏をよぎりました。



そこで奨学生の申請をしましたがそれだけでは足りません。そんななか手段として挙がったのが特待生となり学費の減免を受けることでした。しかし特待生となるには学年での成績が2位以上になることが絶対条件です。

僕の1、2年の最終的な成績はそれ以下でしたのでこの絶対的な壁を越えねばなりません。とても不安でしたが、まずは毎日大学に残って一生懸命勉強してみることになりました。

放課後や部活後、土日も勉強しました。先生の温かいご指導そして共に学ぶ仲間からの支え・励ましもあり、前向きに楽しく精一杯学ぶことができ、無事に特待生に選ばれることができました。とても感謝しています。

結局父は昨年一月に亡くなりました。

「決して諦めるな、報われる時が来る」という父の言葉を胸にこれからも精進していきます。

保護者からのメッセージ

努力は報われる

増田 耕一（父兄後援会評議員）

私は、地方で開業医として三十年、現在、地区の歯科医師会の会長もし、地域歯科医療に少しは貢献してきたと思います。また、本年度は福岡歯科大学父兄後援会近畿支部の支部長もさせて頂いています。8月の支部総会では遠方のところ先生方に来阪して、大学や学生の状況説明、相談にもものつて頂き、本当に有難うございました。大変感謝しています。



先日、ラグビーワールドカップがありました。南アフリカ戦での日本チームの活躍は奇跡の1勝であったと騒がれましたが、本当に奇跡だったのでしようか。後にどれほど選手、コーチが努力を重ねました。大変な努力に対する当然の結果だったと思います。これは、スポーツ以外の、学校教育でも一緒で、コーチである先生方や保護者が、学生をやる気にさせ、環境を作り、マインドセットを変える。選手である学生は、先生を信頼し、学ぶ目標をもって努力して達成する。

歯科医師になる為にも、なつてからも、今の一日一日の積み重ねが大事です。素晴らしい歯科医師になれるように、努力を惜しまず、頑張つてほしいと思います。

New Sophia
コラム

「無用の用」

教育に関して以前から思っていた比喻があります。教育とは握手のようなものではないか、わかつて欲しいと伸ばした手とわかりたいと伸ばした手とで初めて成り立つような。片方がいくら身を乗り出し手を差し伸ばしても、もう片方がポケットに手を入れたままでは握手は成り立ちません。双方から手が差し出されたとき教育は成り立ち、そこで火花が飛び散る、と。なぜに火花は自分でもわかりませんが、なぜだかそういう気がします。そう言えばプラトンは哲学教育を飛び火によつて燃え移る燈火に喩えています。そこでは、教え手と教えられる者の間に歴史とした隔りがあり、教育が成り立つには飛び火という偶然的飛躍が必要になります。教え手ができるのは、教えたい相手の近くで飛び火が起こるのを自身を燃やしながらひたすら待つだけということになります。なんと教師とは無力なのでしょう。個人的にはそこまで無力だと信じたくありませんが、燈火の喩えは見事だと思います。光と熱をもたらす燈火を相手の心に灯すなんて教育の名にふさわしい営みではありませんか。

(永嶋哲也)